



なんでやねん

発行責任者 倉橋 忠



No.19

1学期期末試験 試験範囲と重点

1学期期末試験の試験範囲と重点について説明します。今回も、教科書の記述^{きじつ}から問題を出します。「試験勉強」は、まず、教科書をよく読んでノートを整理し、歴史的な流れ全体を説明できるようにすることが基本です。練習問題はその後^{あと}ですよ。

1 教科書などの試験範囲

① 教科書とチャート式『歴史』

教科書は、p.24からp.33です。しかし、p.30からp.31の「宗教のおこりと三大宗教」は、授業進度の関係で試験範囲から除きます(ただし、「ローマ帝国とキリスト教のおこり」については試験範囲です)。

チャート式『歴史』は、p.14、p.16、p.17が試験範囲になります。

② 「なんでやねん」

No.18と、No.20からNo.24まで。なお、No.20からNo.24は今後の授業で配布します。必ず読んでおいてください。教科書の内容をより深く学ぶための情報です。

2 観点別に見た「試験の重点」

【知識・理解】を中心とする内容

- ① 古代文明の特色を、生活技術の発達や文字の使用などを通して説明できるようにしておくこと。
- ② 中国文明の殷から漢までの大きな流れを説明できるようにしておくこと。
- ③ ギリシャ・ローマの文化と政治や社会の仕組みの特色を説明できるようにしておくこと。
- ④ ローマ帝国とキリスト教のおこりについて説明できるようにしておくこと。
- ⑤ 日本列島における旧石器時代の人々の生活の様子を具体的に説明できるようにしておくこと。
- ⑥ さまざまな資料から、日本列島で狩猟・採集の生活を行っていた人々の生活の特色について説明できるようにしておくこと。

【資料活用技能】を中心とする内容

- ① 教科書や「なんでやねん」で紹介されている図版から情報を読み取ることができるかどうかを試します。応用問題を含みます。

- ② 資料を通して、ヘレニズムの文化が日本の美術に影響を与えたことを説明できるようにしておくこと。

【社会的思考・判断・表現】を中心とする内容

ワークシートで^{わくがこ}枠囲みした所や、^{やじるし}矢印で結んだ複数の歴史的^{れきし}事象^{じじょう}(できごとのこと)間の関係を^{いんがかんけい}中心に理解できているかを試します(因果関係)。

教科書で説明されている因果関係については、しっかり復習しておくこと。

3 今回も課題作文があります

今回の作文は、縄文人になって考えてもらいます。授業中に学んだことや、「**な**
んでやねん」で紹介している情報(知識)、さらに自分で調べたことなどを使って、自分の考えをまとめてください。その際、自分の感想(主観)ではなく、客観的な事実に基づいて、筋道を立てて説明文を書くことが評価のポイントになります。

作文の課題：「縄文時代の草創期(今から約12,000年前)のころ、^{かごしま}鹿児島に住んでいた人々は、春から秋までは^{かこいのほら}梶ノ原に住み、^{ばんしゅう}晩秋に移動して、冬から春までは^{そうじやま}掃除山に住んでいた。^{かこいのほら}梶ノ原は山の北斜面にあり夏でも涼しく、^{そうじやま}掃除山は山の南斜面にあるので越冬地として都合が良かった。ただ、その間はおおよそ30kmほどあり、移動するには^{けわ}険しい山道を歩く必要があった。

冬が近づいてきた^{ばんしゅう}晩秋のある日、2人の兄弟が妻や子どもたちと^{いっしょ}一緒に2家族10人で、^{かこいのほら}梶ノ原から^{そうじやま}掃除山に移動しようとしていた。昨年の冬には、兄弟の父親が^{そうじやま}掃除山で死んだので、そこで^{はか}墓を作り^{ほうむ}葬った。その時、彼らの父親は30歳だった。今年は、32歳になる母親が「私は体の^{ちやうし}調子も悪いし、体も思うように動かないので、お前たちの^{あして}足手まといになるだけだよ。お前たちの家族だけで向こうの山に行っておくれ。私はここで残るから」と言う。兄弟はどうするか相談した。^{きび}厳しい冬がすぐにやって来る。結論を出すしかない。

さて、もし君が、そのような状況におかれた兄弟の一人だったら、どんな結論を出しますか。当時(縄文時代草創期)の状況をふまえて、自分の考えることを説明する文章を書きなさい。」

4 テスト当日に「ノートの提出」をしてください。

歴史のテスト日に、歴史のノートを提出してください。その日以外の提出は認めません。ただし、テスト当日の欠席者は、最初の登校日に提出してください(自分で)。

なお、提出方法は中間試験の時と同じように、歴史の試験日の終礼時に、出席番号順にノートを集めて、歴史委員の人が、教員室の倉橋の所まで持ってきてください。重いので、他の人も手伝ってください。協力をお願いします。